

2-15 肥前名護屋城（佐賀県唐津市）の金森氏布陣場所

① 文禄・慶長の役

◇文禄の役 文禄元年（1592）4月～文禄2年（1593）に休戦した。

◇慶長の役 慶長2年（1597）の講和交渉決裂によって再開され、慶長3年（1598）の太閤豊臣秀吉の死をもって撤退で終結。

秀吉は、天正19年（1591）8月、「唐入り」を翌年春に決行することを全国に告げ、肥前の名護屋に前線基地としての城築造を九州の大名に命じた。秀吉は自分の地元尾張・那古野（氏）と同じ肥前・名護屋（氏）（古くは名久野）という地名を奇遇に感じ、城の立つ山の名前が勝男山かつおと縁起がいいことにも気をよくし、この地への築城を決めている。

9月、平戸城主松浦鎮信まつうらしげのぶに命じて壱岐の勝本に城を築かせた（勝本城）。その築城の担当は、松浦鎮信、日野江城主有馬晴信、大村城主大村喜前よしあき、五島城主五島純玄ごとうすみはるであった。（宇久純玄はこの年、姓を五島に改める。）

② 諸大名が九州へ

10月上旬、全国の諸大名が名護屋へ到着し、城普請に取りかかった。

『松浦古事記』によれば、205,570余の兵が高麗こうらいへ渡り、名護屋在陣は102,415兵で、総計307,985兵で陣立てされた。

九州の諸大名を中心に動員し、突貫工事で8ヵ月後の文禄元年（1592）3月に完成した。規模は当時の城郭では大坂城に次ぐ広大なものであった。

唐入りの期間、肥前名護屋は日本の政治経済の中心となった。

③ 金森氏の陣所

金森氏の陣所の位置は名護屋城主体の南側の離れた箇所であり、北に藤堂高虎、南に京極高次の陣所がある。秀吉は唐津から名護屋城までの街道「太閤道」を作り、石田と金森が諸将の統制のために布陣されたのであろう。

リーフレットより